

特命助成

「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業

娯楽・遊技への過度ののめり込みや依存に関する 相談、啓発、予防、回復支援等の事業に尽力

遊技に関する問題は、時代や社会的な状況の影響を受けやすい。また、医療や既存の精神保健福祉サービスによる対策システムの未整備も問題である。そうしたなかでPOSCからの助成を効果的に活用し、時代や状況に合わせ、依存やのめり込みに関する問題に柔軟かつ迅速に対応し、必要な対策を講じ、実施している。



依存問題の予防に焦点を当てたパチンコ・パチスロユーザー向けの啓発ツールを作成

遊技業界や研究・医療機関などと連携し、 のめり込みの相談、啓発、予防等を実施

認定NPO法人「リカバリーサポート・ネットワーク」は、2006年に全日本遊技事業協同組合連合会の支援によって発足した団体である。同法人では、遊技業界並びに民間や公的機関、研究・医療機関などと連携・協力しながら、パチンコなどの娯楽・遊技の利用者やそれに関係する人々に対して、娯楽・遊技への過度ののめり込みに関する相談、啓発、予防等の事業を行っている。いわゆるのめり込みによって生じている健康被害および社会的損失は相当なものであり、こうした諸問題を未然に防止することは、広く社会全体の利益に寄与することにもつながるものと各方面から期待されている。

娯楽が個人や社会に対して持っている価値はかなり高

いが、その一方で、過度ののめり込みなどの問題が生じる危険性がある。同法人では、そうした娯楽の負の影響を最小化し、個人・社会にとって安全な社会資源となるように、依存問題の対策を通して、遊技参加者、事業者、社会に対する啓発や対策などの具体的な推進に取り組んでいる。

依存問題に関しては、パチンコののめり込みに対する誤解や偏見、事業者の問題意識や理解の低さなどによって、日本ではまだまだ理解されていない側面がある。そのため、同法人をはじめ、依存問題に取り組む団体や機関の多くは、対策のための人材確保、活動資金の確保などの面で苦労を続けているのが現状である。こうした活動を遊技業界として支えるために、POSCでは継続的な支援を行っている。

遊技業界と協働して依存対策の立案や アドバイザー制度の創設などに尽力

同法人では、POSCからの助成を受け、ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援を目的に、年間を通して主に下記のような事業を行っている。

- ①電話相談事業、②広報・啓発事業（ニューズレター発行、啓発リーフレットやポスターの作成、自己診断アプリなど）、③支援・連携活動事業（公的研究への協力、回復施設などとの連携・協力）、④企画開催事業（セミナーや講演会などの企画開催）、⑤研修活動事業（相談技能などの研修）、⑥資料作成・企画／出版事業など。

同法人では、のめり込みなどの問題を持った人々により早期に介入できるような取り組みを続けているが、その一環として行われている遊技産業からの出向者・研修者、遊技産業での勤務経験を持つスタッフに対するトレーニン

グでは、その受講者たちが電話相談の増加に対応するだけでなく、相談者の幅広い背景や内容にも対応できるようになってきたという。また、同法人では遊技業界と協働して様々な依存問題対策を立案し、「安心パチンコ・パチスロードバイザー制度」の創設と配置を進めてきた。また、同法人では遊技業界と協働し様々な依存対策を立案しており、その一つに「安心パチンコ・パチスロードバイザー制度」の設立の支援がある。これらの活動は、海外の研究者や対策専門家から高く評価されている。

電話相談のデータは一年ごとにまとめて分析し、その結果を報告書として冊子やPDFにまとめ、無償で配布しているほか、他の学術研究者とともにデータの分析結果を学術誌などで報告している。さらに、こうした成果を研修講演や視察などにも活用し、遊技産業内外に広く伝えている。



ホールスタッフがe-ラーニングで学べるパチンコ・パチスロ依存問題基礎講座を作成している

助成団体: 認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク <http://rsn-sakura.jp>



未来を支える社会資源を育成するためにも必要な助成

社会的に重要な課題であっても、先鞭がないために官庁では取り組めず、民間にしかできない非営利活動はたくさんあります。POSCの助成は、こうした活動を支え、これからの未来に必要な社会資源を育成するために重要な役割を果たしていると思っています。この助成から良質な社会資源が生まれ、育っていくことを願っています。

認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク
代表理事 西村 直之さん